

博物館

2007足寄の夏

博物館で化石を楽しむ

2007年の夏休み、全国からのお客さんを迎える準備ができました。

今年からはじめた「化石体験クリーニング」。モロッコで産出したアンモナイトやサメの歯化石の実物を掘りだします。開館以来、毎年のように種類を増やしてきた「化石体験レプリカづくり」も充実して16種類。あわせて化石のテイクアウト（持ち帰り）。

でも、目的は化石を持ち帰ることではありません。展示を見て「足寄の化石」を知っていただくとともに、化石の仕事を体験して楽しんでもらう、さらに、形のあるもので来館の記念にしてもらうことが狙いです。開館期間・時間中いつでも楽しむことができます。

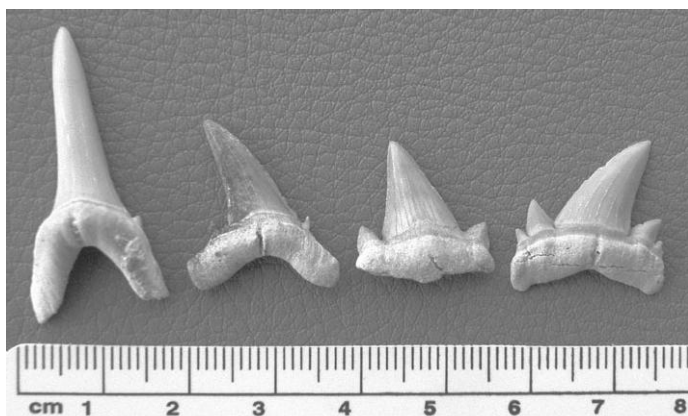
「クリーニング」は、モロッコ産の化石です。実物ですから大きさや形はそれぞれ異なります。

「レプリカづくり」は、足寄の化石を中心として、中学校の理科に登場するものをそろえることを目標にしています。



化石体験クリーニング 上：アンモナイト
下：サメの歯

化石体験レプリカづくり（新資料）
ピカリア（原標本は岡山県奈義町産）



足寄動物化石博物館 フォストリーあしよる

No. 83

2007年7月25日発行

089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 電話 0156-25-9100 ファックス25-9101

Eメール staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

ホームページ <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp>（博物館だよりpdf版あり）

湯の滝の自然回復に向けて マンガン酸化物生成現象の保護のために

雌阿寒岳の溶岩をくぐり抜けた地下水が流れ下る「オンネトー湯の滝」。シアノバクテリアとマンガン細菌が共生してマンガン酸化物が形成されています。平成12年に国指定の天然記念物となり、保護対策を続けてきました。

人工物の撤去

今年度、左滝の上部にあった集水柵を取り外しました。林道から広場に出たとき目の前にひろがる景観は本来のものになりました。

また、第1段階の保護対策として設けられたコンクリートの代替湯溜まりを一部壊しました。現状は見にくい状態ですが、当面は、構造物を除いたことによる

岩盤の変化を見守り、次の対策を考えます。

有害魚駆除

滝の下には池があって、アフリカ原産のティラピアが生息しています。繁殖力のある魚で、藻を食べるためマンガン酸化物をつくる藻（バクテリアが糸状に連なっている）にとってはたいへん危険な存在なので、駆除を続けてきました。

昨年から環境省の事業で取り組まれ、左滝の池ではほぼ壊滅状態にあります。が、設置した仮のせきをこえて下流から戻る可能性もあり、監視を続けています。

一度適地を得た生命は簡単には絶えない。外来生物問題の“いい例”になりそうです。



写真上：集水柵（矢印）
旧オンネトー青年の家の風呂に使うために湯を引いていた。
2006年7月。

写真右：集水柵撤去後の左滝。
2007年7月8日撮影。



休館日 || 8月 休館日なし 全日開館します

博物館の動き 8月（館の行事や職員の動き、来館団体、など）

8月	1日	帯広市啓西小家庭教育学級のみなさん	29日	白糠中学校のみなさん
	3日	帯広東児童保育センターのみなさん	30日	網走第2中学校のみなさん
	4日	音更町手をつなぐ親子の会のみなさん		大樹中学校のみなさん
		夏休み体験教室	31日	阿寒小学校のみなさん
	10日	美瑛中学校のみなさん		別海町中西別小学校のみなさん
		帯広市森の里生涯学習推進委員会のみなさん		
	21日	仙美里中学校のみなさん（骨発掘）		
	24日	温根湯中学校のみなさん		